

真興の成仏論

大 谷 欣 裕

問題の所在

子嶋真興（九三四又は九三五―一〇〇四）は、⁽¹⁾唯識・密教の兼学という立場をとり、その教学は、密教の側面では子嶋流の構築に至り、日本唯識の立場では「法相宗の一乗化」の先驅的役割を果たしたとも指摘されている。⁽²⁾ところが、その教学自体が余りにも独自性の強いものであった事が災いしてか、後世の教学に於いて重視される例は少なく、寧ろ密教では批判を受ける傾向に⁽⁴⁾さえある。また、真興教学の特異性について、従来の検討では、密教経軌の内容を唯識の五位説によって註釈した態度が指摘されるに留ま⁽⁵⁾っている。

しかし、真興の著作である『梵囀日羅駄觀私記』（以下『私記』）及び『蓮華胎藏儀軌解釈』（以下『解釈』）の両書の内、特に『解釈』では、即身成仏に対する、真興独自の解釈が見られるのである。そこで本稿では、『解釈』を中心に検討し、更には真興の学的態度に言及してみたい。

一 行位論の基本的姿勢（地前位）

真興の成仏論を検討する上で、まず確認しなければならぬのは行位論である。『私記』の冒頭では、「秘密之法意趣難^レ解。真言印契任^ニ口与^レ手。但其觀行文隱義邃。始行初心人可^レ迷^ニ即身成仏^一。今依^ニ管見^一指^ニ其位次^一。（『大正藏』六一・五九〇中）」と述べ、そして即身成仏の行位を、所謂法相教学の五位説に則って解釈してゆくのであるが、初発心の位から仏地に至る一々の行位を、速疾に経る事が重要となっているのである。

まず、『私記』では「上來總明^下從^ニ初發心^一已來行相^上。然未^レ入^ニ於四十心位^一。頓悟發心經^ニ十万劫^一到^ニ於十信最初心^一。故今秘密門前所劫數刹那過^レ之。不^レ可^ニ狐疑^一（五九一下・五九二上）」と、資糧位以前の最初發心位の段階から初信に至る階梯を述べ、さらに『解釈』では、地前位全体の速疾性について「然此九位。長途菩薩歷劫修行之分齊也。今真言

者如^二神通人^一疾有^レ所^レ到。一生成仏故廢^二分位^一為^二一念觀^一。名^二九方便^一密示^二九位^一也。(『大正藏』六一・五六六中)という。すなわち、真言行者は地前位を、胎藏曼荼羅上の中台九尊を感得する為の觀法である九方便と把握するからこそ、神通人の如く、一念に地前の九位を証得すると主張している。

二 初地と仏地（十六生成仏の問題）

次に、十地の境界について『解釈』では、初地に焦点を当てている。中でも真興は、『大日經疏』卷九（以下『疏』）の「入仏三昧耶」に、初地と仏地が併説されている事を挙げ、さらに中間の階位をどのように把握すべきかを問題視するが、これについては顯密二教の観点から解答し、顯教については「如^二有頌云^一。如^二竹破^一初節^一。余節速能破。得^二初地真智^一。諸地疾當^レ成。(五七一中)」とあるように、初地以降の位は破竹の如く証得すると主張する。対して密教は、次のようにいう。

依^二密義^一者。『大日疏』云。「然此經宗從^二初地^一即得^レ入^二金剛寶藏^一」云云。『三摩地』云。「現在証^二得歡喜地^一。後十六生成^二正覺^一」云云。秘密宗人若得^二初地^一不^レ經^二劫數^一。唯十六生疾得^二成仏^一。何^レ更建^二立地地修道容預之位^一。是故今文顯^二其深義^一。不^レ可^二狐疑^一。(五七一中)

真興はここで、所謂『三摩地法』の「十六生」を挙げている。これについて密教教学では、「十六大菩薩生」と解釈し、初

地以降に十六大菩薩の功德を一身に得るという意味で把握するのが通例となつてはいるが、『解釈』では、初地の段階で金剛薩埵の境界を得る事は説くものの、「十六大菩薩」に関しては何ら言及していない。そうすると、真興のいう「唯十六生」とは、隔生成仏を示す可能性も否定出来なくなる。それを暗示するかなような内容が『解釈』には次のようにある。

今真言者安^二立通途三劫行相^一勤修精進。超^二越其劫^一一生成仏或入^二初地^一。(五七四上)

この一文をどのように把握するかが問題となる。すなわち、地前位の箇所「真言行者」一生成仏」と定義した点を鑑みると、「入初地」を「十六生」隔生成仏」と解釈することも可能であり、そうすると真興は、真言行者の得果に「一生成仏」と「入初地」の二種類の存在を示唆している事になる。また、初地を起点に成仏の境界を論じる密教教学の行位論に沿って考えるならば、一生成仏と入初地は、いわば同意趣の内容を示しているとも考えられるのである。

但し、顯教が破竹の如く、初地以降の階梯を証得すると述べていた点や、阿僧祇劫成仏に比するならば、十六生とは雖も、速疾性は依然として保たれる事になる。よつていづれにしても、初地以降の階梯を速やかに経る点が、真興の主張であるといえよう。

三 三劫成仏と即身成仏

次に、三劫成仏については『疏』巻一の解釈が手懸かりとなる。『疏』では、三劫に「時分」と「妄執」の二義がある中、真言門（秘密釈）では龜妄執・細妄執・極細妄執の三妄執と把握し、これを度することが三劫成仏と論じている。そして『疏』の三劫理解は、真興の即身成仏論の支柱となるのであるが、『解釈』では次のように述べている。

今真言者安立通途三劫行相勤修精進。超越其劫一生成仏或入初地。故『大疏』云。「若秘密釈 說三百六十心也 超一劫瑜祇行即度一重龜妄執名一僧祇。超二劫行又度一重細妄執名二僧祇。復越一劫更度一重極細妄執得至三仙慧。故云三祇劫成仏也。若一生度此三妄執一生成仏。何論二時分耶」又云。「能於此生滿足地度。不復歷劫修對治行」^{云云}（五七四上）

真興は真言行者の得果を示す証左として『疏』から二文、引用しているが、実は真興の『疏』の一生成仏解釈には問題がある。右の文脈から判断するに、真興は『疏』の一生成仏を、一生入究竟位の即身成仏と同義としているが、厳密にいうとここでいう『疏』の一生成仏とは「仏慧の初心」、つまり初地に到る事を示した内容なのである。このような解釈の相違は一体、何を意味するのであろうか。

そもそも右文では「真言者安立通途三劫行相」とあり、

『私記』では、三劫成仏と行位の関係を、地前位に第一阿僧祇劫、七地に第二阿僧祇劫、十地以降に五相成身觀を建立する中、第三成金剛心の段階で第三阿僧祇劫をそれぞれ満じると説いている。よって、真興は『疏』の一生成仏を、顯教の三劫成仏に引き寄せて解釈しているのである。このような真興の説は正しく、即身成仏と三劫成仏が等質なることを示している事に他ならず、さらには、即身か歷劫かといった、いずれの成仏と見るかは「真言行者」精進の人」と「余教の行者」懈怠の人」の機根に一任されるという事が、主張の主要となつていたのである。さらにこれを『撰大乘論釈』所説の「撰在一刹那」によつて解釈する点に、真興の顯密一致を標榜する立場が遺憾なく發揮されているのである。

所_レ言劫時不相応法。延短促長在三行者意。懈怠之人刹那為_レ長。精進之人多劫為_レ短。今真言者由_二精進力_一於_二多劫中_一為_二一刹那_一。由_二意樂_一故無_レ有_二妨難_一。故『撰大乘』云。「処_レ夢謂_レ經_レ年。覺乃須臾頃。故時雖_二無量_一。撰_二在一刹那_一。愚修雖_二少時_一。怠心疑已久。仏於_二無量劫_一。勤勇謂_二須臾_一」^{云云}（五七四上、中）

密教教学では、歷劫修行による成仏は必ずしも認められていない訳ではない。しかし、即身成仏と歷劫成仏という、相対する成仏論を解決する上で、「撰在一刹那」は真興にとって最良の理論であつたといえよう。

また、「撰在一刹那」と速疾成仏の関連性については、後

世の『成唯識論同学鈔』にて、『菩提心論』との関係から否定されるが、中世の日本唯識に於ける一大展開の前段階で、真興が「撰在一刹那」を基盤とした教学を既に形成していたという事実については、注目してよいと思われる。

まとめ

以上の検討結果から、真興の教学には、五位説による註釈のみならず、東密教学に於ける十六生成仏の問題や、唯識教学にて盛んに論及される「撰在一刹那」によって、即身成仏と三劫成仏の問題を解決するといった、後世に繋がる、興味深い内容が胚胎されている事が窺知され、その背景には、徹底した顕密一致の学的態度が垣間見られるのである。

また、平安期の東密の学匠の大半は、台密教学の多大なる影響によって自身の教学を形成しているが、それに比して真興の教学には、台密の要素が稀薄であると思われる。しかし、真興と台密教学との関係性については、今後の検討課題として残しておく。

- 1 真興の生年については追塩千尋「子島寺真興の宗教的環境－撰関期南都系仏教の動向に関する一考察－」（『仏教史学研究』三四巻第二号・一九九一年）参照。

- 2 間中定潤「子嶋真興の唯識観－密教との関連性－」（『日本の仏教と文化』・永田文昌堂・一九九〇年）

- 3 真興の説を全面的に依用するものは僅かに、房覚（？）（一一五七？）の『未決答決』、海恵（一一七二～一二〇七）の『密宗要決鈔』等が挙げられる程度である。

- 4 頼瑜（一二二六～一三〇四）の『金界発恵抄』では、五相成身観を十地以降に建立する『梵囀日羅駄観私記』の説を、「五相可レ在十地位」也（『大正蔵』七九・一一六下）と批判する。

- 5 五位説との関係については佐伯良謙「真興僧都の密教観」（『密宗学報』二六・一九二五年）、間中定潤「前掲論文」参照。

- 6 房覚の『未決答決』では、伝空海撰『秘蔵記』の十地解釈や、『即身成仏義』の十六大菩薩生に併せて真興の説を引用しており、真興の十六生については、「十六大菩薩生」と解釈している。

- 7 日本唯識教学に於ける撰在一刹那と速疾成仏については楠淳証「三祇成仏と一念成道 法相論議（撰在一刹那）」による一大展開」（『仏教文化と福祉・龍谷大学短期大学部』・二〇〇一年）等参照。

〈キーワード〉 真興、十六生、三劫成仏、即身成仏、撰在一刹那
（龍谷大学大学院）